問題別調査結果　［数学］

江戸川区立二之江中学校－生徒

・以下の集計値／グラフは，４月１９日に実施した調査の結果を集計した値である。
※ただし，４月１９日に調査を実施していない学校については，４月２０日以降５月２０日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

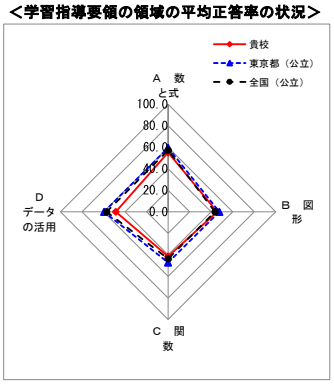
集計結果

対象生徒数	江戸川区立二之江中学校	東京都（公立）	全国（公立）
	190	70,865	891,913

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		14	49	54	51.4
学習指導要領の領域	A　数と式	5	55.2	59.5	57.4
	B　図形	3	45.6	47.6	43.6
	C　関数	3	41.4	47.1	43.6
	D　データの活用	3	48.6	59.5	57.1
評価の観点	知識・技能	9	59.1	62.4	59.9
	思考・判断・表現	5	30.1	39.7	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	50.5	55.2	52.6
	短答式	5	66.0	68.2	65.7
	記述式	5	30.1	39.7	36.2

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については，一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，
それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は，実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式	記述式	正答率(%) 貴校	東京都（公立）	全国（公立）	無解答率(%) 貴校	東京都（公立）	全国（公立）
1	４２を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア,イ				○				○		61.1	47.6	52.2	13.2	13.2	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ア(ウ)				○				○		70.0	78.6	74.5	12.6	5.1	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて，正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している		2(2) ア(イ)			○			○			52.1	48.1	44.9	0.0	0.5	0.4
4	変化の割合が２である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(ア)		○			○			38.4	41.0	37.9	0.5	0.5	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している				1(2) ア(ア)	○			○			77.9	85.4	83.3	0.0	0.4	0.3
6（1）	同じ偶数の和である$2n+2n=4n$について，nが９のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) ア(イ)				○				○		70.5	78.2	73.8	9.5	5.2	6.0
6（2）	差が４である２つの偶数の和が，４の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)					○				○	42.6	52.5	48.7	27.4	17.0	20.0
6（3）	ある偶数との和が４の倍数になる数について，予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見いだし，説明することができる	2(1) イ(イ)					○				○	31.6	40.7	37.6	34.2	24.2	26.2
7（1）	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び，選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1(1) イ(ア)		○				○	34.2	47.0	44.0	6.3	1.5	1.4
7（2）	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について，正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる				2(1) ア(ア)	○			○			33.7	46.2	44.1	1.1	0.9	0.7
8（1）	与えられたグラフにおいて，点Ｅの座標を書く	与えられた表やグラフから，必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(ウ) イ(イ)		○				○		53.2	58.5	54.6	8.9	6.4	7.2
8（2）	目標の３００ｋｇを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)			○				○	32.6	41.8	38.4	29.5	21.2	24.4
9（1）	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2(2) ア(ア)			○				○		75.3	78.1	73.2	11.1	6.5	7.5
9（2）	∠ＡＢＥと∠ＣＢＦの和が３０°になる理由を示し，∠ＥＢＦの大きさがいつでも６０°になることの説明を完成する	筋道を立てて考え，事柄が成り立つ理由を説明することができる		2(2) イ(イ)				○				○	9.5	16.7	12.5	54.7	36.3	38.5